

2007 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 3 月 30 日作成)

小委員会名	サステイナブル建築モデルデザイン小委員会		主 査 名：安田幸一 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境本委員会		委員長名：吉野 博 主 査 名：
設 置 期 間	2007 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な都市・建築の姿を提示する ・ 「CLIMATIC CUBE」によるサステイナブルな建築モデルを提示する。 ・ モデルの実効性を検討する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 安田幸一 [主査] (安田アトリエ / 東京工業大学) 石井大五 (フューチャースケープ建築設計事務所) 太田浩史 (デザイン・ヌーブ / 東京大学) 金子尚志 (エステック計画研究所) 小泉雅生 (小泉アトリエ / 首都大学東京) 小玉祐一郎 (エステック計画研究所 / 神戸芸術工科大学) 曾我部昌史 (みかんぐみ / 神奈川大学) 高井啓明 (竹中工務店) 高間三郎 (科学応用冷暖研究所) 塚本由晴 (アトリエワン / 東京工業大学) 中村美和子 (武蔵工業大学) 難波和彦 (東京大学) 西沢大良 (西沢大良建築設計事務所) 橋本純 (新建築社) 村田涼 (エステック計画研究所)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2007 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価												
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)												
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)													
講習会													
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1 . 奥村昭雄先生によるレクチャー</td> <td style="text-align: right;">参加者数 30 名</td> </tr> <tr> <td>2 . 大高一博先生によるレクチャー</td> <td style="text-align: right;">参加者数 33 名</td> </tr> <tr> <td>3 . 小玉祐一郎先生によるレクチャー</td> <td style="text-align: right;">参加者数 28 名</td> </tr> <tr> <td>4 . 「日産先端技術開発センター」見学会</td> <td style="text-align: right;">参加者数 50 名</td> </tr> <tr> <td>5 . 「アスタノイエ」見学会</td> <td style="text-align: right;">参加者数 35 名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right;">(参加者数はオブザーバーも含む)</td> </tr> </table>	1 . 奥村昭雄先生によるレクチャー	参加者数 30 名	2 . 大高一博先生によるレクチャー	参加者数 33 名	3 . 小玉祐一郎先生によるレクチャー	参加者数 28 名	4 . 「日産先端技術開発センター」見学会	参加者数 50 名	5 . 「アスタノイエ」見学会	参加者数 35 名	(参加者数はオブザーバーも含む)	
1 . 奥村昭雄先生によるレクチャー	参加者数 30 名												
2 . 大高一博先生によるレクチャー	参加者数 33 名												
3 . 小玉祐一郎先生によるレクチャー	参加者数 28 名												
4 . 「日産先端技術開発センター」見学会	参加者数 50 名												
5 . 「アスタノイエ」見学会	参加者数 35 名												
(参加者数はオブザーバーも含む)													
大会研究集会													
対外的意見表明・パブリックコメント等													
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1 . 「CLIMATIC CUBE」によるサステイナブルな建築モデルの提示への端緒を開いた。 2 . 2008 年の建築学会大会での PD を開催へ向けて準備を行った。 3 . ゲストオブザーバーによるレクチャーを 3 回開催。一定の成果を得た。 												

委員会活動の問題点 ・課題	1 .「CLIMATIC CUBE」によるサステイナブルな建築モデルの提示へ、具体的議論が必要。 2 . レクチャー、見学会については、今後系統的に記録をまとめる。
------------------	---

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。